

## 調査全体を振り返って

（相馬 直子）

このベネッセ東アジア5都市調査（以下、「東アジア調査」と略す）は、2010年2月から5月にかけて5都市の3～6歳の就学前の幼児をもつ保護者に聞いたものである。東日本大震災前に実施されたものだが、2010年の調査時点で3～6歳だった子どもたちが、20歳の成人になるのは、2024年～2027年である。今回調査対象となった子どもたちは、東日本大震災の復興、これからの日本社会、アジア社会を担っていく、大変重要な使命を担う世代である。

これから数十年、東アジア地域では急速な少子化、高齢化が進行していく。40～50年前は、高い出生率と急速な人口増加が東アジア諸社会の特徴であったにもかかわらず、近年は少子化と高齢化に直面している。変化の時期と度合いは地域によって異なる（表1参照）。

少子化からみると、韓国の合計特殊出生率（以下、「出生率」と略）は、1980年には2.83だったが、2005年には1.08に低下し、2009年にはわずかに上昇して1.15となった。日本では1989年の出生率が1.57となり、翌年「1.57ショック」と社会問題化したのはよく知られている。そして2005年には1.32まで低下したが、2009年には1.37に上昇した。もっとも出生率が低いのが、台湾であり、2009年は1.03を記録している。

高齢化はどうだろう。日本では他の東アジア諸国・地域より急速に高齢化が進行しており、2009年には総人口に占める高齢者の割合が22.7%となった。次いで（本調査対象ではないが）香港12.8%、韓国と台湾が10%、中国が8%となっている。

さらに、拡大家族世帯（少なくとも夫婦とどちらかの親1人が同居）の割合が急速に低下している。台湾（14.3%）と日本（12.4%）が他の国・地域よりわずかながら高い（表1）。

こうした少子化、高齢化、家族の変化の中で、親たちは、どのような気持ちや願いをこめて、子どもを育てているだろうか。東アジア調査では、「子どもの将来に対する期待」についてたずねており、その回答に着目して考えてみたい。

「子どもの将来に対する期待」について、すべての都市でもっとも高かったのは、「自分の家

族を大切にする人」である。しかし、第2位と第3位は、各都市の特徴が出ている。東京の第2位・第3位は、「友人を大切にする人」(71.6%)、「他人に迷惑をかけない人」(65.6%)。ソウルは「リーダーシップのある人」(55.3%)、「経済的に豊かな人」(40.5%)、台湾が「自分の考えを貫き通す人」(49.4%)、「仕事で能力を発揮する人」(49.2%)。北京・上海が「仕事で能力を発揮する人」(北京 51.4%、上海 44.3%)、「まわりから尊敬される人」(北京 38.6%、上海 32.9%) である。

こうした結果から、アジアの中で、日本は集団主義が強く、それに比べて韓国や中国では個人主義や実力主義が強いのではと 생각 くなる。

しかし、もう少し角度を変えてみると、日本と他の東アジア社会では、関係の築き方、人間の信頼の仕方がやや異なるといえるのではないかと思う。

社会学者の浜口恵俊は、日本を「間人主義」(かんじんしゅぎ) と特徴づけ、次の3つのことを指摘している。まず社会生活を送るうえでは、相互扶助が不可欠で依存し合うのが人間本来の姿(①相互依存主義)であること。自分の意図を相手も察して応じてくれるはずだという相互信頼が必要なこと(②相互信頼主義)。そして、対人関係はそれ自体価値があり、それを持続させることが無条件に大切であること(③対人関係の本質視)。日本が「間人主義」の特徴を持つという指摘はあまり新しくないが、「子どもが将来どうなってほしいか」という願いの違いは、各都市における親の人間観(人間関係の考え方、他者への信頼観)を映し出しているのではないかと思う。ただ、今回の大震災で、日本における人間観や社会観が大きく変化するかもしれない。今回の調査対象の親は、子ども期をバブル期・バブル崩壊期の中で過ごしたが、今回調査対象の子どもたちは、東日本大震災の混乱期、復興期に子ども期を過ごすことになる。彼らの人間観(人間関係の考え方、他者への信頼観)がどう変わってくるのかに着目したい。

震災の中で、子どもたちは多くの被害を受け、その声なき声に、私たちはより敏感にならなければならない。そして、同じアジア社会に生きる台湾・韓国・中国では、子どもたちや親たちが日本の復興を祈り、アジアの中でも新しい連帯が生まれている。この調査対象となった子どもたちが、2020年代に成人を迎える時、日本社会は復興を遂げ、そして、アジア社会はより強い連帯で結ばれていてほしいと強く願いながら、この東アジア調査の次回調査を待ちたいと思う。

表1 アジア諸社会の人口指標 (1980～2000年代)

	合計特殊出生率 (TFR)				65歳以上人口の割合 (%)				拡大家族の割合 (%) <sup>2</sup>		
	1980	1990	2005	2009	1980	1990	2005	2009	1980	1990	2005
中国	2.24	2.17	1.72	--	4.9	5.6	9.1	8.3	--	--	--
香港 <sup>1</sup>	1.93	1.28	0.96	1.04	6.7	8.6	12.3	12.8	16.0	12.5	8.1
日本	1.75	1.54	1.32	1.37	9.1	12.0	20.1	22.7	20.7	17.8	12.4
韓国	2.83	1.59	1.08	1.15	3.8	5.1	9.1	10.7	17.0	12.5	7.0
台湾	2.52	1.78	1.12	1.03	4.3	6.2	9.7	10.6	--	--	14.3

(注)

1. 香港の数値は1981年、1986年、2006年。
2. 香港の数値は、垂直的・水平的拡大家族をすべて含む。

出典：各国・地域の統計をもとに作成。